

ドクター + 教えて

放っておくと怖い脂肪肝について

磐田市立総合病院
副院長兼肝臓内科部長

小林 良正



脂肪肝は、肝細胞に脂肪の滴がたまった状態をいいます。以前はお酒の飲み過ぎが原因と言われていましたが、最近は肥満の人の増加とともに、お酒を飲まない人にも脂肪肝を持っている人が増えました。これを非アルコール性脂肪性肝疾患と呼び、国内には1000万人以上の患者さんがいると推定されています。

非アルコール性脂肪性肝疾患には、肝臓があまり弱ることのない単純な脂肪肝と、肝臓に炎症を伴い肝硬変や肝がんに行き着く非アルコール性脂肪肝があります。現在、非アルコール性脂肪性肝疾患の患者さんは、国内には100〜200万人存在すると言われていています。

この病気は、肥満、糖尿病、高脂血症や高血圧などの生活習慣病と密接に関連があります。

肝臓は沈黙の臓器です。他の肝臓病と同様に、非アルコール性脂肪性肝炎もかなり進行するまで症状はありません。非アルコール

性脂肪肝で肝臓を弱らせないために、肝臓専門医にきちんと診断してもらうことが大切です。また、確定診断するには、肝生検が必要で、肝生検は、局所麻酔した後細い針を肝臓に刺してごく一部採取した組織を顕微鏡で診断する方法です。最近では、肝臓内の脂肪量や肝炎の進行度を評価できるMRI検査にて肝生検を受けるかどうか判断できるようになりました。

非アルコール性脂肪性肝炎に対する基本的な治療法は、食事・運動療法による減量です。特効薬はまだありませんが、糖尿病・高脂血症・高血圧に対する一部の治療薬に効果が期待できる場合があります。40歳代、50歳代の働き盛りの人にも非アルコール性脂肪性肝炎が存在する可能性がありますので、家族のためにも脂肪肝を放置せず、精密検査を受けてください。

※肝臓病に関する市民公開講座を開催します。詳細は19ページをご覧ください

vol.78

カナダで学んだ人権感覚

ふれあい交流センター センター長

藤田圭二



私は、今から27年前、文部省若手教員海外派遣で、カナダを訪れました。私が派遣された先は、ブリティッシュコロンビア州のクレストンという田舎にあるエリクソン小学校でした。私はその小学校で教員をしている女性の家庭でホームステイすることになりました。私のホストは、その小学校の教員をし、当時その地区（現在の日本で例えると、磐田市・袋井市・森町などを合わせた地区）の職員組合の代表をしている女性でした。その女性の夫は、多くのガソリンスタンドで働き、一家の家事を担う働き者の男性です。私はある日、彼に「どうして食事の支度をあなたがするのですか？」と尋ねてみました。すると彼は得意気に「俺の方が料理が上手だからだよ」と言ったのです。

後からその奥さんから聞いたのですが、その日は彼の仕事上で大事な契約話があったそうなんです。しかし、彼はそれを断って私を猟に連れて行ってくださいました。私は後日そのことを知って「どうして大事な仕事をキャンセルしてまで、私の付き合いをしてくれましたか」と尋ねてみました。すると、彼は「おまえとの約束の方が先だったからだ」と言ったのです。私はこのとき、自分がいかに約束に差をつけていたかを思い知らされました。

約束した相手が目上か目下か、仕事か遊びか、得か損かなど、自分の都合で約束を変更してきたことを反省させられました。他人の人権を守ることは、基本は、人を差別しないことです。相手が子どもでも大人でも、女性でも男性でも、仕事上の上司でも部下でも、基本的に差をつけられないことが大事だと思うのです。このカナダでの体験は、その後の私の人権感覚を磨く良いきっかけとなりました。